

平成22年度

韓国務安郡派遣研修報告書

平成22年8月16日（月）～20日（金）



北名古屋市

目次

● 務安郡派遣日程表	1
● 派遣者名簿	2
● 務安郡 名勝地	3
● 韓国での体験・研修レポート	
穂積 彩乃（師勝中学校）	4
八鍬 華澄（師勝中学校）	6
村川詩奈美（師勝中学校）	8
大野菜々子（師勝中学校）	10
小塚耕一郎（訓原中学校）	12
長原 瞬（熊野中学校）	14
山田 悠史（西春中学校）	16
佐藤 明果（天神中学校）	18
畑野 佑太（天神中学校）	20
井上 匠（天神中学校）	22
宮島 鉄朗（名古屋中学校）	24
重松 茉里（南山学園南山中学校）	26
● 務安郡での体験風景	28

北名古屋市中学生の務安郡派遣日程表

月／日／曜	場所等	時間	交通機関	スケジュール
1日目 8月16日(月)	セントレア 仁川 ソウル	6:40 6:57 7:38 9:35 11:35 12:30 19:00	K E-752 専用バス	岩倉駅集合 岩倉駅発 セントレア駅到着 大韓航空機にてソウルへ 仁川国際空港到着 ソウル市内見学(景福宮・民俗博物館) 夕食後ホテルチェックイン
2日目 8月17日(火)	ソウル 金浦空港 光州空港 務安郡 木浦市	8:30 8:40 9:20 10:20 11:10 13:00 15:30 19:00	専用バス O Z-8703 専用バス	ホテルにて朝食後チェックアウト 金浦空港へ 搭乗手続き アジアナ航空機にて光州へ 光州空港到着 青少年文化センター見学 海洋文化財研究所・自然史博物館見学 夕食後ホテルへ
3日目 8月18日(水)	務安郡	9:00 9:30 10:10 11:10 12:10 16:00 17:10	専用バス 自家用車	ホテルにて朝食後務安郡庁へ 務安郡庁訪問(相互紹介) ホタム空港宇宙展示場見学 昼食後干潟体験場まで移動 干潟体験(貝やサザエ取り) 務安生態干潟センター見学 ホストファミリー宅へ
4日目 8月19日(木)	務安郡 光州空港 金浦空港 ソウル	8:30 9:00 11:00 13:25 14:25 15:20 16:20 19:00	自家用車 専用バス O Z-8704	僧達文化芸術会館集合 回山白蓮池見学 昼食 搭乗手続き アジアナ航空機にて金浦へ 着後、ソウル市内へ ソウル市内見学 夕食後ホテルへ
5日目 8月20日(金)	ソウル 仁川 セントレア 北名古屋市	9:30 10:35 12:35 14:20 16:20	K E-757	ホテルにて朝食後チェックアウト 搭乗手続き 大韓航空機にて帰国の途に セントレア帰着後北名古屋市へ 東庁舎到着(解散)

派遣者及び交流生徒名簿

北名古屋市中学生

学校名	学年	性別	氏名
師勝中学校	2	女子	穂積 彩乃
師勝中学校	2	女子	八鍬 華澄
師勝中学校	2	女子	村川詩奈美
師勝中学校	2	女子	大野菜々子
訓原中学校	2	男子	小塚耕一郎
熊野中学校	1	男子	長原 瞬
西春中学校	1	男子	山田 悠史
天神中学校	1	女子	佐藤 明果
天神中学校	1	男子	畑野 佑太
天神中学校	1	男子	井上 匠
名古屋中学校	2	男子	宮島 鉄朗
南山中学校女子部	1	女子	重松 茉里

務安郡中学生

学校	学年	性別	氏名
務安中学校	1	女子	金廷娥
務安中学校	1	男子	尹先教
務安北中学校	1	女子	文惠楨
務安北中学校	1	男子	鄭現文
清溪中学校	1	女子	閔彩嬉
玄慶中学校	1	男子	金京太
夢灘中学校	1	男子	朴大韓
南岳中学校	1	女子	朴耿旻
南岳中学校	1	男子	金成冠
望曇中学校	1	女子	金根海
海際中学校	1	女子	金書蘭
海際中学校	1	男子	金世根

引率者名簿

北名古屋

西春中学校	教務主任	楠 知文
熊野中学校	養護教諭	山田 恵美
事務局	防災環境部長	海川 和行
事務局	総務人事担当次長	武市 学

務安郡

務安郡庁	担当者	金瑩武
清溪中学校	教師	金택현
清溪中学校	教師	宋金姬
	通訳(ガイド)	尹秀鏡

務安郡 名勝地



白蓮池

草衣禪師
誕生地



干潟

体験・研修レポート

北名古屋市長師勝中学校2年 穂積 彩乃

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

私は、8月16日から20日にかけて韓国務安郡の研修派遣に参加させていただきました。最初は、大好きな韓国へ行く喜びと一緒に行くメンバーと仲良くやれるかという不安が入り混じっていました。しかし、男女関係なく5日間仲良く過ごせたのでそんな心配は必要ありませんでした。

飛行機を降りて、空港に足を踏み入れた瞬間、（ああ、韓国へ来たのだなあ）と思いました。耳に入ってくるアナウンスも電光掲示板も何もかも全てが韓国語で、普通の会話ですら何を言っているか分かりませんでした。でも、日本で韓国語を聞く事は出来ないの、新鮮な感じがしていいなと思いました。

空港を出てからしばらくして、景福宮というとても大きな王宮へ行きました。私達が訪れる前日に工事が終わったばかりで、王宮の色鮮やかさに言葉を失いました。日本の建築物はあまり色が鮮やかではありませんが、韓国の王宮は赤・青・黄色と色とりどりで足を止めずにはいられません。とてもきれいで目をひかれます。そして韓国には昔からオンドルという床暖房があるということや、夫婦で寝室が違うこと、キムチなどを入れるかめが多いほどお金持ちだということが、景福宮では社会の授業では学べない事を沢山学ぶ事ができ、とてもよい勉強になりました。

夕方、夜ご飯で骨付きカルビを食べました。韓国は葉っぱにお肉・キムチ・ナムルやコチュジャンなどを巻いて食べるという事をガイドさんから聞き、私もその通りにして食べたのですがキムチが予想以上の辛さで本当に口から火が出るかと思いました。でもとても美味しかったです。その時、近くにあった青唐辛子も一口食べたならキムチ以上に辛くて水を沢山飲みましたが、これも韓国でのよい体験になりました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

私は、生まれて初めてホームステイを体験しました。みんなは「相手の家族と会うのが緊張する」と言っていましたが、私は緊張するなんて少しも思いませんでした。むしろ、会うのが楽しみで仕方ありませんでした。

私の相手は一つ年下の김정아 (キム・チョンア) という女の子で、とてものんびりした子でした。チョンアの家族はとても明るい人達でした。チョンアのお母さんは出かけているときも、家にいるときも常に「疲れてない?」「眠くない?」と私を気遣ってくれたり、何をすることも私に選択権をくれたりしました。弟の성연 (ソンヨン) もまだ小学2年生なのに私に「何がしたい?」「何かして遊ぶ?」など色々言ってくれました。そんな家族の何げない気遣いが私はとても嬉しかったです。その夜の事です。シャワーを浴びた後にみんなでドラマを見ていました。韓国のドラマが大好きな私は（うわ～生の韓国ドラマだ～）と思って見ていましたが、日





本語の字幕がないとさっぱり訳が分からなくて、思ったほどはあまり面白くありませんでした。でも、チョンアが日本に来た時、同じ事を考えていたんだろうなあと思いました。その時、もっと韓国語を勉強してくれば良かったなと後悔しました。私は韓国へ来る前にハングルと韓国語を勉強しましたが、それだけでは勉強不足だったということが改めて分かりました。しかし、別れる日の朝、ソンヨンが初めて私の事を「누나」(ヌナ)と呼んでくれました。韓国語で「お姉ちゃん」と

言ってくれたのです。私はヌナと言われて嬉しくて、思わず涙が出そうになってしまいました。でも私はこの時、韓国の家族のところに会いに来るという目的ができました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

私は、今回の務安郡研修派遣に参加して、韓国の食文化について興味を持ちました。韓国は日本と食文化が全く異なり、朝・昼・晩と毎食キムチがでます。食事のマナーが一番年齢が上の人からご飯を食べ始めるという事、器や皿を持ってはいけない事、ご飯と汁物はスプーンを使って食べるという事など他にもマナーはたくさんあります。現地のやり方で食べようとしてもなかなか慣れないことをするのは難しかったです。私もいつもの癖で器や皿を持って食べてしまったり、箸でご飯を食べてしまったり、大変でした。それに韓国の食器は全部金属なので少し重たかったです。

そして、違いが明確なのは食文化だけではありません。韓国には「韓服」という民族衣装があり、男性は「パジ・チョゴリ」女性は「チマ・チョゴリ」という上下で分かれている服です。上は男女一緒で、下に男性はズボンを女性はスカートを履きます。見た目は男女そんなに変わりません。私は、日本は見た目ですぐに男女が分かるけど、韓国はあまり見た目が変わらないなと思いました。しかし、日本の着物や袴よりとても着やすそうでした。

こうして生活スタイルも文化も歴史も全く違う国が交流を深めるのはとても良い事だと私は思いますし、交流をもっと深める事でお互いの国の良さを知ってもらいたいと思います。この務安郡研修派遣を通して沢山の人が韓国に興味を持ってもらえたら嬉しいし、私は話を聞いて「韓国ってどんな所なんだろう？」となるのではなく、自分の目で韓国を見てもらいたいと思っています。

今回、務安郡研修派遣に参加できて本当に良かったです。忙しい中来てくださった先生方や市の方々、ホームステイでお世話になった家族のみなさん、韓国を案内してくださったガイドさん達にお礼を言いたいです。

정말 감사합니다. (チョンマル カムサハムニダ)
(本当に 感謝しています)

体験・研修レポート

北名古屋市立師勝中学校2年 八 鍬 華 澄

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

「안녕하세요. (アンニョンハセヨ)〈こんにちは〉」。韓国で一番多く使った韓国語です。だれもが知っている言葉ですが、英語と同じように発音が難しく、事前研修で発音するのに苦戦しました。今まで外国語と言えば英語しか触れる機会が無く、初めて学ぶ韓国語はとても難しかったです。研修で先生の親切な教えもあり、務安郡の中学生との再会時には簡単な自己紹介ができるようになりました。務安郡の中学生が北名古屋市に訪問する前に私たちのように事前研修があると、もっとコミュニケーションがとれてよかったです。



韓国と言えば、キムチなど辛い食べ物ばかりがあるというイメージがありましたが、そうでないものもありました。一番食べたいと思っていたチヂミは全く辛くなく、私の口に合いとてもおいしかったです。何度か食事をして、日本と韓国の食文化の違いをいくつか見つけました。特に驚いたのは、食事のマナーと食事を使う道具です。日本にはお茶碗やお椀を手に持って食べるというマナーがあります。しかし、韓国にはそのようなマナーは無く逆に持って食べるのはよくないとされています。食事の道具は日本のように、はしがありますが、長くそして重く少し使いにくかったです。こんなに近い国で、こんなに文化の違いがあるという事は、遠い国ならもっと違いがあるのかなと思いました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

初めての体験でしたが、緊張よりも楽しみで胸がいっぱいでした。ステイ先の中学生のヘジョンは、7月に私の家にステイしていてどんな子か分かっていたので、緊張が少し和らぎました。



北名古屋市から一緒に行った大野さんのステイ先の事情により、私のペアの子の家に私と大野さんとそのペアの子と一緒に泊まりました。夕食後、テニスをしました。言葉も文化も違うけれどスポーツはどんな国でもでき、心を通わせる事が出来るのだと思いました。お風呂の前に、韓国伝統の遊びを教えてもらいました。「トンギ」と言って日本のお手玉に似ていて、とても難しかったです。ヘジョンの家で一番困ったのは、お風呂です。ユニットバスだったので、慣れていなくて大変でした。

韓国の伝統衣装を着せてもらえてうれしかったです。ヘジョンが日本に来たときには、私の浴衣を着せてあげたらとても喜んでくれました。自分が相手にしてあげた事で相手が喜んでくれると、とてもうれしいです。お風呂の後、「トッポッキ」と言うおもちの入った韓国料理を

私とヘジョンとヘジョンの妹、大野さんとそのペアの子の5人で一緒に食べました。「トッポッキ」は見た目が真っ赤でしかもとても辛かったけれど、おいしかったです。寝る前にきゅうりのパックをしてもらいました。きゅうりを輪切りにして凍らせたものを顔にはりとても気持ち良かったです。一泊はとても短く感じましたが、その分とても充実していました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

今回の研修で、2つのことを学びました。1つ目は、言葉についてです。私は今まで自分の母国語である日本語に誇りを持っていました。日本人として日本語を学ぶのは大切だと思います。韓国も韓国語を話す世界に一つの国です。お互い母国語を話すのは自分たちしかいないけれど、母国語だけを覚えていくのではなく、それ以外の言語も覚える必要があると思います。それは、韓国ではほとんど英語で会話をしたからです。英語は世界の共通語なので、これからはしっかり英語を学ぼうと思います。言葉はコミュニケーションを取る上での道具なので、伝えたいという気持ちと理解しようと言う気持ちが必要だと思います。そして言葉と気持ちが一つになることで初めて伝わったと言えるのだと思います。

二つ目は「百聞は一見にしかず」を実感しました。私は今回の研修の前までは韓国についてあまり知識が無かったので、いろいろな資料に目を通しておきました。しかし実際に現地に行ってみると、私の想像とは違うことも多く、本当に理解するには、実際に自分の目で見て、聞き、肌で感じなければいけないのだと気が付きました。同時に、前もって自分で考えていたからこそ、自分の考えと実際の違いを発見することが出来たのだと言う事にも気が付きました。

今回の務安郡との交流で日本と韓国の両国の友好関係が深まったとしても、私たちは両国の間に起こった過去の出来事を忘れることは出来ません。歴史で韓国併合のことを学び、日本と韓国の今までを知りました。そこにある過去を踏まえて両国がこれからも未来に向かって、より良い交流が続けられることを強く願います。

「안녕하세요. (アンニョンハセヨ)」の次に多く使った韓国語は「감사합니다. (カムサハムニダ)〈ありがとうございます〉」です。今回の派遣事業に対して支援して下さいました方々に「감사합니다. (カムサハムニダ)」、感謝します。



体験・研修レポート

北名古屋市立師勝中学校2年 村川 詩奈美

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

私は今回の研修に参加してたくさん
のことを学びました。研修に行くまでいろ
いろ勉強もして準備をかさねました。参
加してみても韓国文化など直接自分自身
で感じてとっても勉強になったと思いま
す。初めは外国と聞いて行ってみようか
かなり迷いました。そして北名古屋市の
代表としてなのでさらに迷いました。し
かし実際に行ってみて、勉強もできて韓
国という国を知ることができました。そ



れに韓国をもっと好きになれました。国境を越えて交流し、体験をして感じたことは沢山あります。韓国の人達のやさしさや気遣いがとてもうれしかったです。それにこの五日間一緒に行動した先生方や生徒達とも協力できました。いろいろなことを体験して、さらに交流、協力もできたことで自分自身もこの五日間で成長できたと思います。今までにない初めての体験でしたので苦労したところもありましたが、日本に帰ってきた時に、もう一度行きたいと思いました。今回の韓国研修派遣に参加して、自分の知らないことや、やったことのないこと、五日間の間に何度もそのようなことがありました。その体験は日本にはない事ばかりでした。このように外国と日本の違いを比べることで大きな違いを知ることができます。この五日間で体験したことは私を大きく成長させてくれました。この体験をこれから生かしていき、日本の力となるようにがんばっていきたいと思っています。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

私のホームステイ先の家は、小さなお
店でした。そこのお店の奥に家がありま
した。相手の家族の方は、お父さんお母
さん、その子と弟と妹でした。よくお母
さんとお父さんが話をしてくれました
が、あまり通じなくて分からない時はた
だ苦笑いすることしかできませんでした
。最初はきんちょうしましたが弟がよく
笑わしてくれたので、すぐに家族の方
と仲良くなりました。そしてまず相手の
家に荷物を置いてから焼肉を食べにい
きました。前の日も焼肉でしたが、食
べに行った所は少し違うようなお肉で
した。とてもおいしかったです。その次
は商店街に行きました。いろいろなお店
がありました。一つ気になったお店があ
ってお母さんに聞いてみたら、韓国の
ドレスの店だと聞きました。チマチョ
ゴリという韓国の民族衣装とドレスが
合体したようなものでとても綺麗でし
た。その次は大きな公園のような所で、



相

手の子と弟と妹と遊んでから帰りました。その後、家に帰ってからお風呂などをすませ、家族と私でお話をしました。その時にはもう、大体何を言っているかが分かるようになりました。そこでお父さんが、「あなたが来た時は私達の家族だよ。」と言ってくれました。次の日さよならがしたくなかったです。とても私に気を遣ってくれて本当に感謝しています。きっとこの体験がこの先にも続いていくとよいと思いました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

この研修ではたくさんのことを学びました。となりの国でもこんなにも文化が違って、言葉も通じないし、外国ではたくさん苦労することがわかりました。しかし、言葉が通じなくても人々の心は通じるということがわかりました。ご飯を食べる時はスプーンで、器を上を持ち上げないで食べるのが、なかなか自分ではできませんでした。それに韓国では、朝にも昼にも夜にもキムチがでるそうです。朝からキムチはさすがに食べないと思っていましたが、実際朝に出たのを見たときはすごくおどろきました。それに生きたタコをそのまま食べたりもしました。最初は見ていてなかなか食べることができなかったのですが、勇気を出して食べてみたらとてもおいしかったです。それと食べ物で一番驚いたことは青とうがらしを普通に韓国の方が食べているのを見てすごくおどろきました。やっぱり辛いものになれているんだな、と思いました。このように食べ物だけでも日本とすごく違うことがわかりました。すぐとなりなのにこんなにも違いがあります。アジア州の中で比べてもこんなに違います。これからアジアは世界を引っ張っていく大きな州になっていきます。そのアジアのトップが日本だという話をガイドさんから聞きました。その日本人の私ができることは、韓国で学んだことを生かして、北名古屋市から日本へと羽ばたき、活躍できるように一生懸命がんばりたいと思います。

体験・研修レポート

北名古屋市立師勝中学校2年 大野 菜々子

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

私は、8月16日から5日間務安郡研修派遣団員の一員として韓国に行ってきました。5日間共に行動したバディは中学一年生でした。でも、すぐに仲良くなってたくさんのお話を話しました。

仁川空港に着いて、日本円を韓国のウォンに換えてもらう時、一万円を渡したらなんと13万ウォンが返ってきて、とても驚きました。なんだか金銭感覚が狂ってしまいそうでした。ソウルに着いて初めに見学したのは「景福宮」という所です。景福宮にはたくさん建造物があって、屋根に使われている丸太一つ一つに花の模様が描いてあって、とてもカラフルでした。でもそこには王様だけしか通れない道があり、身分の差が厳しかったんだなと思いました。



ソウルは大都市だったけれど、務安の方は少し北名古屋の町並みと似ていました。

日本と韓国で違ったことはまず、お風呂の造りです。湯船、トイレ、洗面台が一つの部屋にあり、シャワーは湯船の中で使わなければいけません。他には、食事のとき朝昼晩と毎食5種類のキムチが出ました。本場のキムチは、日本のキムチよりも辛くて、少しすっぱい気もしたけれどおいしかったです。韓国の料理は、ほとんど辛かったです。韓国では茶碗を置いて食べるのですが、日本の習慣が出てしまい慌てて茶碗を置くという事もしばしばありました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

私のペアのジュリア（本名はギョンミン）の家庭の事情で、残念ながらジュリアの家に泊まることはできませんでした。しかし、ジュリアと仲の良いヘジョンの家に私とジュリアとヘジョンのペアの八鍬さんが泊めてもらいました。

会話はほとんど英語でしました。たまにパソコンを使いましたが、韓国ではキーボードに



ハングルの母音と子音が書いてあって、それを組み合わせて文字をうちます。2人ともキーボードを叩くのがとても速くてびっくりしました。

お風呂から出た後、韓国の伝統的な遊びを教えてもらいました。まず、四角い小さな積み木のようなものを5つ適当に転がして、その中から積み木を一つ取ります。そして取った積み木を上に向けて投げる間にまた積み木を一つ拾い、落ちてきた積み木

をキャッチするというものです。一見簡単そうですがかなり難しかったです。ジュリアやヘジョン、ヘジョンの妹はとても上手に積み木を拾っていくのに、私はなかなかできませんでした。

11時半くらいに、少しの間出掛けていたお父さんが帰ってきました。なんと私が自己紹介のとき「トッポッキが食べたい」といったのを覚えていてくれて夜遅く買いに行ってくれていたのです。12時をまわっていたけれど皆でおいしくいただきました。

ヘジョンの家族は私達にとってもよくしてくれました。お父さんはいろいろな所に連れて行ってくれたし、お母さんは寝る前私達に胡瓜のパックをしてくれました。妹は、私達よりも遅く寝たのに私達より早く起きて朝食の準備などをしてくれました。

とてもよく働く子でびっくりしました。だから、次の日別れるのがとても辛かったです。バスの窓から皆が見えなくなるまで手を振り続けました。

韓国のありのままの生活を体験することができてとても楽しかったです。

3. 務安郡での研修で学んだこと

務安に着いて初めに見学したのは「青少年文化センター」です。北名古屋市での健康ドームの様な所です。でも、もっと設備が充実していて、パソコン、カラオケボックス、映画鑑賞室、ビリヤード台などがありました。私は、その中で前からやってみたかったビリヤードをやらせてもらいました。通訳の方にやり方を教えてもらいながらやっていると、近くでパソコンをやっていた2人組の女の子が通訳の方を通して話しかけてくれました。「やり方を教えてあげるよ!」と。私はその時、とっても嬉しかったです。こんなところで、新しい友達が2人もできるなんて夢にも思っていませんでした。2人は、私と同じ中学2年生でした。とてもビリヤードが上手くて、私が失敗しても優しくアドバイスしてくれました。通訳の方促されて私達は「チング(友達)!!」と言って握手をしました。



私は日本人、相手は韓国人。文化も言葉も違うけれど心が通じれば一緒に遊んだり笑ったりできるんだということを学びました。2人に出会えて本当によかったです。2人のお陰で私はまた一段と成長することができました。韓国で手助けして下さった通訳の方やガイドさん、引率者の方々には本当に感謝しています。

体験・研修レポート

北名古屋市立訓原中学校2年 小塚 耕一郎

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

僕がこの研修に参加したのは母が勧めてくれたからでした。事前研修会で韓国は儒教の国であることや、務安郡庁での自己紹介文や挨拶を韓国語で教えて頂き、研修の回を重ねるごとに「早く韓国に行って日本と違う文化などを見たい」という思いと「北名古屋市の中学生の代表で行くのだ」という強い決意が生まれました。



初めて食べた韓国料理

2. 務安郡でのホームステイを体験して

我が家に先にホームステイに来たソンギョ君の家に行きました。ソンギョ君は「僕は名探偵コナンが好きだからコナンと呼んで。」と言っていました。日本のアニメは世界中に広がっているのだと感じました。怖いお父さんだったらどうしようかと緊張していましたが、お会いしたら気軽に握手をして挨拶をしてくれました。僕は「チョンペケスムニダ・・・はじめまして。」と言いました。お母さんもとても優しくて安心しました。車の中での会話がハングル語で分からなかったけれど、とても楽しそうに会話をしたり、たまに僕に話しかけてくれたりして本当にいい家族だと感じました。家はアパートの5階で周りが田んぼに囲まれていました。家に着いてから荷物を置いてお兄ちゃんを中学校に迎えに行きました。日本の学校の雰囲気似ていました。お兄ちゃんは中学3年生でサッカーのユニフォームを着ていました。ソンギョ君もサッカーが好きで韓国では野球よりサッカーが人気があると教えてくれました。夕食は近くのカルビ屋に連れて行ってもらいました。そこで、おじいさんとおばあさんにお会いしました。そこで僕は大変ショッキングな体験をしました。なんとおじいさんが「食べなさい、飲みなさい。」と突然僕に日本語で話しかけてきたのです。

僕はびっくりして「はい。」と日本語で答えました。あとでガイドさんに聞いたら「昔、日本は韓国を植民地にし強制的に日本語を覚えさせられたからお年寄りの中には日本語が少し話せる人がいるよ。」と教えてくれました。日本が60年ほど前にこの国を支配していたことを思い出し胸がドキッとしました。日本語を忘れていないという事は日本がしてきた事も忘れていないのだと思います。僕たちがこれから出来ることは過去の歴史を認識し、何より大切なのは国境を越えた人と人とのコミュニケーション作りではないかと感じた韓国の夜でした。

寝る前におかあさんが顔にパックをしてく



ソンギョくんと行った 夜景の綺麗な山

れました。家族全員バックをして、その顔を見てみんなで大笑いしました。朝の目覚めは良く昨日の疲れもなくなっていました。朝ごはんを家で食べ、お兄さんとソンギョ君は学校があるので家でお別れしました。何だかとても悲しかったです。車で集合場所に送ってもらいお父さん、お母さんにも「カムサハムニダ・・・ありがとう。」と言ってお別れしました。

ホームステイの間にショッピングモールなどに連れて行ってもらったり、韓国語を教えてもらったりお世話して頂きました。特にお母さんは「お腹空いていない？」といつも声を掛けてくれて、僕に気を遣ってくれました。近くて遠い韓国ですが大人になったらまた来たいと思いました。服やお茶、韓国のりなどお土産をもらい韓国の人たちの心の温かさを実感した一泊二日の貴重な体験でした。

3. 務安郡での研修で学んだこと

今回の研修ではソウル市内、博物館、宇宙展示場、干潟体験など様々な場所に行き、文化の違いを肌で感じました。その中でガイドのヤンさんの話で印象深いものがあります。最近の子供はキムチを食べられないという話です。朝、昼、晩と毎食必ずキムチが出てくる韓国・・・しかし、最近は洋食の普及によりキムチを食べる子供が減少しているとのことでした。その対策として学校給食で積極的にキムチを出しているそうです。日本でも「朝は和食」といいますが、パンなどで済ませる人が多くなっているように感じます。韓国も日本も若者文化は似ているのだと感じました。

そして、韓国に行って痛感したことは「いつでも笑顔を忘れない」という事です。言葉が通じない中でも笑顔はお互いの気持ちを伝えるのに一番大切なものだとわかったからです。どうしても表情やしぐさで判断するので笑顔は大切だと思いました。

今後は個人が出来ることは限られていますが、多くの人たちに韓国の魅力を伝えようと思います。そして、韓国に関心を持つ人が増えてくれればうれしいです。僕たちは過去の事をふまつつ韓国とは良い関係を結んでいかなければならないと思います。

最後に、この派遣に対しあたたかく迎えてくださった韓国の人々に心から感謝します。また、一生忘れない中学2年夏の研修を設定し準備段階から支えて下さった関係者の方々、引率の先生方に深く感謝します。

マックも好きだけれど、韓国の料理が大好きになりました。
キムチ、マッシソヨ（美味しい）



ハングル語のマクドナルド

体験・研修レポート

北名古屋市立熊野中学校1年 長原 瞬

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

北名古屋市の研修派遣に参加する事になって、僕はたくさんの不安と期待と緊張を経験して成長出来たと思います。

まず、派遣選考の抽選会ではドキドキしながらも決定した時はとても嬉しく、そして選ばれたからにはぜひ色々な韓国文化を学んでこようと思いました。次に打ち合わせ会で、日程や持ち物や注意事項などを聞いているだけで期待もふくらみましたが「北名古屋市の代表」という自覚を持って臨むようにと話があると、あらためて緊張しました。一緒に派遣研修に参加する人達とも仲良くなれるのかも不安で一杯でした。



<白蓮池にて>

出発前の勉強会で韓国の歴史や文化についてだけではなく、ハンゲルのしくみや発音も勉強しました。でも言葉が通じるか不安でした。しかし僕の不安と緊張は出発するとすぐなくなり、友達や先生方ともすぐに仲良くなる事が出来て、とても楽しい五日間を過ごせました。

日本の文化と違う事に色々目をひかれました。韓国では、左ハンドル、右側通行で、信号も縦型がありました。そのため、移動中もキョロキョロとあたりを見渡していました。日本でも有名なファーストフードやコンビニも目につきました。ハンゲル文字の看板はとても新鮮でした。思っていたより日本語で書かれたネオンや看板が多かったです。「日本からの観光客が多いんだろうなあ」と思いました。食文化では、はしが金属製だったりスプーンでご飯を食べたり、茶わんを持たずに食べたり、おどろく事もありますが、鍋をみんなで食べたり日本と似ている点もあります。「日本に一番近い外国」だから似ている所が多かったです。文化だけでなく、「今後も色々な交流ができる国となっていけたらいいなあ」と思いました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

僕と同じ中学一年生の現文君宅にお世話になりました。七月に僕の家に来てもらっているのであまり不安もなく、すぐにうちとけることが出来ました。と言っても、カタコトの韓国語と英語とジェスチャーですが…。まず銭湯につれて行ってもらいました。日本の銭湯とほとんど同じでした。次に夕食を食べに行きました。ここでは、ハンバーグのような焼肉や、シオマネキを丸ごとゆでた物などを食べました。キムチもたくさんの種類がありました。その後、現文君の祖父宅におじゃましました。板ばりの床や螺鈿細工の大きなタンスや鮮やかな色づかいの布製品などの日本と違った生活様式がおもしろかったです。軒下には、ニンニクや唐辛子がぶら下がっていたり、屋根の上にキムチがつけてあるカメが置かれていたり、とても韓国らしいなあと思いました。意外だったのが、日本のアニメが一日中放映されていて、「ポケットモン



<ホームステイ先の現文君と>

まいもなどの農業がさかんです。また、干潟で捕れる新鮮な細足テナガダコなどの海産資源も豊かな所です。見学した「回山白蓮池」は、東洋最大の白蓮棲息地で十万余坪もある池をおおいつくす蓮を展望ブリッジから眺めることができました。残念ながら盛花の頃は過ぎてしまっていました。蓮は生命と平和を象徴する花として知られているそうです。特産品として、蓮のせっけんや白蓮茶などが販売されていました。僕たちも、蓮根ごはんや蓮カツなどのめずらしい物を食べる事が出来ました。ぜひ機会があれば、満開の頃に訪れてみたいと思います。

干潟体験では、長ぐつなどを貸してもらって海辺の生物を探しに行きましたが、干潟センターで紹介していた様な珍しい生物は見つけられなくて少しがっかりしました。韓国の中学生たちと一緒に海で遊んだり、航空宇宙展示場を見学したり、ホスト学生以外との友達とも交流できて務安郡での楽しい一日を過ごせました。

僕は、今回の研修でさまざまなことを学ぶことが出来ました。また「言葉が通じなくても、だれとでも仲良くなれる」という事を身を持って学ぶことができました。この研修のおかげで、普段はなかなか出来ない体験をすることができ、とてもよい思い出になりました。この五日間の研修で学んだ経験を、これからの生活に生かしていきたいと思います。

スター」や「ドラえもん」などがとても有名だったことです。韓国のアニメは日本の影響を受けてどんどん進化しているそうです。近い将来、韓国のアニメを日本で見ることもあるかもしれないと思いました。

あつという間の一泊ホームステイでしたが、文化の違いなどを実感できました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

韓国でも南の方に位置する務安郡は、広い黄土と干潟が発達していて、玉ねぎ、ニンニク、さつ



<景福宮>

体験・研修レポート

北名古屋市立西春中学校1年 山田 悠史

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

8月16日～20日までの5日間、韓国へ研修派遣に行きました。初めは、派遣メンバーの中で知っている人が少なく心配でしたが、事前研修を通して仲良くなることができました。また、引率してくださった先生が、僕が通っている西春中学校の楠先生だったので、とても心強く安心して参加できました。

日本での事前研修では、韓国人の先生からハングル語での自己紹介の仕方や文化や食べ物などについて教えてもらいました。

そのおかげで、ハングル語で自己紹介ができるようになりました。また、学校名や趣味、韓国でやってみたいことなどを、他国の言葉で話すことができるようになり自信ができました。

韓国の首都、ソウルでは、朝鮮王朝第一の王宮「景福宮」が一番心に残りました。景福宮は、それぞれの目的別に約330棟の建物がありとても壮大でした。景福宮の建物に描かれている模様は、とてもカラフルでした。赤、青、緑、オレンジなどで塗られていて、日本とは随分違う印象を受けました。また、建物に煙突がたくさんあったので不思議に思っていたら、通訳の方からオンドルという床暖房設備の煙突だということを教えてもらいました。日本で床暖房ができたのは最近なのに、韓国では昔からあったと聞いて驚きました。僕達が景福宮を訪れたときに、ちょうど「王宮守門将交代儀式」が行われていました。その当時の衣装を着ていたのですが、建物と同じように赤や青などの鮮やかな色だったので驚きました。サッカーの韓国代表のユニフォームも赤なので、韓国人は派手な色が好きなのかなぁ、と思いました。



王宮守門交替儀式の様子

2. 務安郡でのホームステイを体験して

ぼくは、キム ギョンテくんの家にホーム・ステイしました。ホーム・ステイは以前にも韓国で体験したことがありますが、そのときは日本語が通じたので困りませんでした。しかし今



お世話になったギョンテ君家族

回は日本語が通じなかったので、頑張って英語で話しました。家の人は、とても明るい人達でした。特に、お母さんはよく笑っていました。

迎えに来てもらってからすぐに、焼肉を食べに連れて行ってもらいました。ぼくは、いつもの癖で肉をサンチュに包まずに食べていると、家の人達が見て何か言っていました。韓国語はわかりませんが、肉をサンチュに包んで食べないことを言っていると思ったので、「This is Japanese style.」と言うと、納

得してもらえたようでした。牛の血を固めたものが入っているスープのようなものも出てきました。僕は食べることができませんでしたが、ギョントくんのお父さんは当然のように食べていて、食文化の違いを実感することができました。

夕食後、ショッピングセンターに連れて行ってもらいました。本屋では、日本のアニメの絵本や漫画がたくさん売られていました。日本のアニメが韓国で人気があるのを見て、嬉しかったです。また、日本語でしか書かれていない本も売っていました。食品売り場には、いろいろな種類のキムチや握り寿司が売られていました。韓国のりも売っていたので、お土産に買おうと思っていたら、家の人達がたくさん買ってくれました。

そのショッピングセンターで偶然、ギョントくんのお母さんの友人に会ったのですが、その人がとても上手な日本語で話しかけてきたのでびっくりしました。日本に3年ぐらい住んでいたそうです。あまり上手だったので、その人と話している間は日本にいるような気がしました。

ギョントくんの家に着いたのが夜遅くだったので家の周辺の様子がわからなかったのですが、次の日の朝外を見てみると、田んぼが広がっている自然がいっぱいのとてもきれいな環境でした。

3. 務安郡での研修で学んだこと

務安郡では、郡庁を訪問して、ハングル語で自己紹介をしました。事前研修で教わったことを話したと思いますが、とても緊張していたのできちんと話せたのかわかりません。机の上には、務安郡の特産品の玉ねぎで作られた、玉ねぎジュースが配られていました。苦い味がすると思っていたのですが、甘くておいしかったです。

また、「国立海洋文化財研究所」にも行きました。ここでは、昔の沈没船や、当時の積荷などがたくさん展示してありました。「新安船」という名前の、沈没した貿易船が展示されていたのですが、実際の沈没船の木材を海から引き上げて組み立てたそうです。あまりにも大きくてびっくりしました。また、日本の鎌倉時代の陶器や下駄も展示してあり、日本との昔からの繋がりの歴史がよくわかりました。

他にも、自然史博物館や白蓮池、干潟博物館等にも連れて行ってもらいました。務安郡は自然が豊富で、そして出会った人達は、みんな優しい人ばかりでした。この5日間での貴重な体験や人との出会いは、これから一生忘れることはないと思います。



海洋文化財研究所にて韓国の仲間と

最後に、この務安郡研修を企画してくださった北名古屋市の市長様はじめ職員の皆様、引率してくださった団長、副団長はじめ中学校の先生方、韓国でお世話になった多くの方々、また、ご心配をおかけした西春中の先生方はじめこの研修に関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。この派遣で学んだ国際感覚を、将来必ず何かに生かしていきたいと思います。

体験・研修レポート

北名古屋市立天神中学校1年 佐藤 明果

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

この韓国研修派遣は両親にすすめられたこともあり、私も行ってみたいなと思っていたので応募しました。でも、最初はとても不安でした。なぜなら、一緒に研修に参加する中学生はほとんどが知らない人で、二年生ばかりだったからです。しかし、すぐに仲良くなれて研修派遣がとても楽しみになりました。

韓国は少し日本と似ている部分がありました。それでも、食べ物や食事の仕方が違いました。韓国で晚ご飯に生きたタコを食べたことも驚きでしたが、必ずキムチがでてくるとも驚きました。でも、とても美味しかったです。箸とご飯の茶碗は鉄でできていて、食べる時は、お皿を持って食べてはいけないマナーがありました。

韓国のソウルでは、市内の景福宮、民俗博物館を見学しました。務安郡では、海洋文化財研究室、自然史博物館、ホタム空港宇宙展示場、白蓮池、青少年文化センターを見学しました。青少年文化センターでは、韓国の中学生と仲良くなれました。でも、すぐに別れる時がきて、「せっかく仲良くなれたのに」と思い残念でした。

三日目には、干潟体験とバナナボート（四人乗り）をしました。バナナボートは水上バイクみたいなものです。もの凄いスピードで、曲がる時に私達は海の真ん中で落ちてしまいました。とても楽しかったので、もう一度やりたいと思いました。

この五日間で私は韓国の文化や食の素晴らしさなどを学ぶことができました。この韓国研修派遣で、日本以外の国のことを知り、世界のいろいろな国々に興味を持つことができました。この派遣に参加させていただいたことに、とても感謝しています。



2. 務安郡でのホームステイを体験して

私が一番心に残っているのはホーム・ステイです。私は初めてホーム・ステイをしました。ホーム・ステイをしたのは、中学一年生の根海（クンヘ）という女の子の家でした。初めは緊張して



いて、前の日まで練習していた韓国語がひとつも言えませんでした。しかしクンヘの家族に会ってすぐ、「ハルカ、ハジメマシテ」と言われ、少し緊張がなくなりました。クンヘの家族はとても優しい人でした。

クンヘの家に行ってから、パソコンの翻訳機やジェスチャーを使って会話をしたりしまし

た。

私は一つびっくりした事があります。それは、クンへの日本語がとても上手で、たくさん話せていたことです。「ダイジョウブ？」や「アリガトウ」など、プレゼントをあげた時にも「ウレシイ、アリガトウ。タカラモノニスルネ。」と言ってくれて凄く嬉しかったです。しかし私は韓国語も英語も話せず、笑うことしかできませんでした。この時、私は英語をこれからはしっかり勉強しようと決めました。

夜は家族みんなで花火をしました。日本の花火と違って韓国は色々な花火があって面白かったです。

朝ご飯にもキムチが出てきました。しかも、味噌汁までもがとても辛く、なんでこんな辛いんだろうと思い、よくみとみると、緑色の唐辛子が入っていて驚きました。

帰りの日に、クンへとクンへの妹からたくさんのプレゼントと手紙をもらいました。

クンへ達と別れる時、やっと「カムサハムニダ」と言えました。一泊二日はあっという間でした。クンへたちと、すぐに会えないかもしれないけれど、またいつか会おうと約束しました。私のために色々やってくれたクンへとクンへの家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

3. 務安郡での研修で学んだこと

この研修は私にたくさんの事を教えてくれたと思います。韓国は、日本と似ている所もあるということを知りました。韓国にも日本にあるマックやファミリーマートがあったことです。しかし、違いもたくさんありました。例えば、お金に関しては、日本では「円」ですが、韓国では「ウォン」で、日本での一万円は韓国だと約十三万ウォンにもなります。韓国で「ウォン」の買い物をした後は、日本円がとても高く感じました。

それ以上に、人としての大切な事を学べたと思います。この研修は、たくさんの人たちとの出会いから始まりました。私は、今回この韓国研修派遣は私にとってすべてが初で、緊張して不安でいっぱいでした。そんな時、私を助けてくれたのは、この研修で知り合った人たちでした。私がやれない事を手伝ってくれたり、助けてくれたりしました。すごく嬉しかったです。さらに、こんなにも私にとってとても楽しく、たくさんのことを学べた研修となったのは、一緒に行ったのがこのメンバーだったからだと思います。でも、このメンバーでもう会えないのは、とても残念に思います。

最後に、韓国の素晴らしさ、たくさんの人たちとの出会い、努力する事の大切さ、そして感謝する事などこの韓国研修派遣で学ばせてもらったことを、将来に役立てていきたいと思っています。



体験・研修レポート

北名古屋市立天神中学校1年 畑野 佑太

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

僕は今回、務安郡と北名古屋市との交流のために韓国に行きました。この交流会に応募した理由は、他の国の友達と友達になりたいと思ったからです。それなので韓国に行くことが決まった時、とても嬉しかったです。

ハングル（韓国語）の勉強も、韓国に行く前に、名古屋大学の韓国人留学生の方が先生となり教えていただきました。そのおかげで少し安心することができました。

僕のバディは2年生で、しゃべったこともなかったのに仲良くやっていたのか不安でした。でもセントレア行きの電車の中で仲良くなることができたので、安心でき、韓国に行くのがもっと楽しみになりました。

韓国で初めて行った建築物は景福宮でした。そこにある大きな門には入口が3つに分かれていて、右が文化の道、左が部下などの道、真ん中の大きな道が王様の道と、意味があるそうです。昔は王の道を他の人が通ると、お尻100回たたきという罰があったそうです。僕はそれのお仕置きはとても恥ずかしそうなのでかわいそうだと思います。それから韓国伝統の儀式を見ました。その儀式は韓国の人もたくさん見に来ていたので貴重なものなのだなと思い、興味深く見ることができました。

その日の夕食に、骨付きカルビを食べました。韓国の焼き肉は日本の様に切って出てくる物を自分で焼いて食べるのではなく、お店の人が丸ごと焼いて、その後で切ってくれるので驚きました。食べ方もキムチやナムルと一緒に葉っぱに巻いて食べるのが当たり前で、楽しく、美味しく食べることができました。

2日目飛行機に乗って務安郡にいきました。窓から外を見渡すとソウルの都会の風景から、辺り一面田んぼが広がる風景に変わっていたので、務安郡だと直ぐにわかりました。また務安郡は北名古屋市にかなり似ていたため少し落ち着きました。その日の夜、噴水が見られるということで海の方へ見に行きました。色とりどりの噴水が音楽に合わせて形を変え、アートを作っているかのようでとても幻想的でした。ソウルもいい所だったけど、務安はもっといい所だなとおもいました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

僕はホームステイは初めてでした。務安郡の中学生と干潟体験をしました。干潟は広くて、地面は貝殻だらけでした。僕たちはそこで潮干狩りをしました。しかし僕はあまり貝を採ることができませんでした。最後にバナナボートにチャレンジしました。最後まで落ちることなくとても楽しかったです。干潟体験が終わり、目的のホームステイ先の林・大韓（パク・デハン）



君の家に行きました。大韓君の家には教会が2つもあったので、すごい家だなあと思いました。家ではパソコンゲームをして遊びました。それから少しテレビを見た後に韓国風のログハウスのある親戚の家に行きました。そこはとても風通しが良く気持ちよかったです。帰り道でホタルを捕まえました。本物のホタルを見るのは初めてだったので、すごくきれいだと思いました。北名古屋市にはホタルはいないので、務安の川の方がきれいなのだと思いました。家に帰ってから大韓君と庭に寝ころび夜空を一緒に見ました。空には星がたくさんあって、すごくきれいでした。それから夜食を食べました。夕食後だったのであまりお腹は空いてなかったのですが、お母さんの作ってくれたピザ風にアレンジされたトッポギがすごく美味しかったのでたくさん食べてしまいました。韓国にいったら絶対食べたいと思っていたのでうれしかったです。



次の日朝食後、時間があつたので近くの川で遊び、写真をたくさん撮りました。そしてとうとうお別れの時間が近づいて来た時、韓国のをたくさんもらいました。僕と大韓君が散歩をしている時に秘密に買ってきてくれたそうです。大韓君の家族にはとても親切にしてもらいました。そして最後に別れの言葉を告げました。こういった形で僕のホームステイは楽しく無事におわりました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

務安郡では韓国の食文化、伝統文化を学びました。回山白蓮池では、10万坪にわたる蓮を見渡すことができました。こんなにも沢山の蓮を見たのは初めての体験だったので感動しました。

食文化では、毎回の食事にキムチが必ず出てくる事に驚きました。韓国の人達は幼い頃から辛い物を食べられるように訓練をしているそうです。キムチなどを幼いころから食べていると肥満防止などにもつながるので体に良いそうです。それにキムチは消化の働きを助けたり、食欲が増したりするという効果まである事を知りました。

僕は韓国でさまざまな文化を目で見て生で学ぶことができました。しかし、言葉が通じなくてコミュニケーションを取ることが出来なかったため、もっとハングル（韓国語）を勉強してまた韓国に行きたいと思います。



体験・研修レポート

北名古屋市中神中学校1年 井上 匠

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

今回の研修派遣に応募した理由は、韓国の人と仲良くなったり、歴史や文化を学んだりしたかったこと、そして、本場韓国の焼き肉を食べてみたかったからです。不安だったことは、「言葉」でした。学校で勉強している英語ですら解らないことが多いのに、全く知らない韓国語が理解できるか心配でした。

以前から乗りたかった飛行機に乗ることができましたが、着陸の時に耳が痛くなり驚きました。韓国に到着して、初めに目にした日本とは全く違う歩行者用信号に驚きました。初日は、国立民族博物館を見学しました。ここでは、日本の神社にある鳥居の名前の由来が、鳥が人間と神様の間だと信じられており鳥がいるから鳥居というシャレなのだと知りました。そして、韓国で楽しみにしていた焼き肉を実際に食べることができ、特に骨付きカルビが気に入りました。2日目は、青少年文化センターや海洋文化研究所・自然史博物館を見学しました。海洋博物館には、日本語に翻訳した説明が聞ける機械を借りることができ、ひとつひとつのことを理解しながら見学できました。3日目に務安郡庁を訪問した時に、以前我が家にホーム・ステイしたキム・ソンカン君に再開しました。自己紹介の時、韓国語の「これからよろしくお願ひします(アプロ チャイル プッタ クルムニダ)」を忘れてしまい、出発前の不安が的中してしまいました。しかし、みんなで宇宙展示場や干潟体験を楽しんでいるうちにそんなことは忘れ、夕方からホストファミリーの家へ行きました。4日目は、ホストファミリーと別れ、白蓮池を見学しソウル市内を回りました。日本とあまり違いのない街並みで、不思議な感じがしました。5日目は、飛行機で帰国し、あっという間の5日間でした。



2. 務安郡でのホームステイを体験して

今回のホーム・ステイは、キム・ソンカン君の家にお邪魔しました。ソンカン君の家はマンションの4階で、見晴らしも良くとても大きな部屋が2つありました。テレビの画面にパソコンが接続されていて、インターネットの翻訳サイトで学校のことや家族のことなどいろいろなコミュニケーションを取ることができました。夕飯はソンカン君のお母さんの手料理で、特にチャプチェ（春雨や野菜を炒めたもの）がとて

もおいしくて、つい食べ過ぎてしまいました。韓国定番のキムチもありましたが、日本で食べていたものとは比べ物にならないくらい辛いものでした。シャワーを浴びた後、ホストファミリーと一緒にライトアップされた噴水を見に行きました。そこには屋台がでており、そこで射撃をやらせてもらいました。家に帰って、韓国のカーレースゲームをしたり、みんなで韓国のドラマを観たりしました（意味は解りませんでした）。ソンカン君のお母さんが、私の家族が心配しているだろうと言って、日本の家族に電話をさせてくれました。あまりの楽しさに少し夜更かしをしてしまい、朝寝坊をしてしまいました。急いで朝食を食べて集合場所に行き、ソンカン君のお父さんが私のカバンから着替えを用意してくれていた時は、すごく恥ずかしい反面うれしかったです。別れの時は、伝わっていないかもしれないけれど、また会いましょうと言って務安郡をあとにしました。

3. 務安郡での研修で学んだこと

今回の務安郡の研修派遣で学んだことは1つ目に国によって歴史や文化が違うということです。食事のマナーの違い（食器を持ってはいけない）や自動車が右側通行など、普段日本で当たり前のようにしていることや見慣れていることとの文化の違いを実際に体験することができました。また、普段地図を見ている気付かなかったのですが、戦時中アメリカの支配下にあった「ソウル」だけが漢字で書かれていないことなど、いろいろな歴史を知りました。

2つ目は、頑張れば外国でも自分の気持ちが伝わるといことです。あいさつ以外の言葉は日本語で話していましたが、気持ちは伝わったと思いました。今回は、インターネットの翻訳サイトに助けられましたが・・・。

3つ目は、人を大切にする心です。ホーム・ステイ先の家族は、とても優しく接してくれたので、全く寂しくありませんでした。また、一緒に参加した仲間たちの協力で、とても楽しい時間を過ごすことができました。

韓国から帰ってきてあまり時間は経っていませんが、ソンカン君に会いたくなりました。是非、もう一度会いたいと思っています。また、これから機会があれば、是非他の国にも行ってみたいと思います。



体験・研修レポート

名古屋中学校2年 宮島 鉄朗

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

僕の今回派遣に参加した理由は、母に勧められたこともあったし、韓国はどんな国なのだろうかと興味もあったからです。

韓国語といえば「アニョハセヨ」「カムサハムニダ」くらいしか知らなかった僕が、名古屋大学に留学している大学生の先生から韓国の言葉や文化を教えてもらいました。北名古屋市の代表で行くのですからしっかりしなければいけないと思い事前研修を受けました。中でも印象に残ったことは、国花は日本では桜ですが、韓国では無窮花（木槿）【むくげ】だということや、ハンゲルのしくみなどを教えてもらったことです。事前研修をやるにつれて韓国がどういう国か少しずつわかってきていました。



研修に行ったみんなとソウルのマクドナルド前で

8月16日にセントレアから韓国仁川空港へ到着、思ったより緊張して最初どういう風に行動したらいいのかわからなくてとまどっていましたが、一緒に研修に参加した仲間がいたので、いつの間にか楽しい研修になっていました。ソウル市内を見学して景福寺に行きました。その建物は赤や黄色やオレンジなど明るい色で多彩に塗られていてとても綺麗でした。そういう場所を見て日本の文化と韓国の文化との違いをよく知ることができました。日本とはちがう文化だなと特に感じたことは、毎回食卓に出てくるキムチでした。韓国のキムチは辛そうだなと思いましたが、実際食べてみるとあまり辛くなくて、慣れればおいしいです。でも、毎日食べていると僕はさすがに飽きてきましたが、韓国の人たちは飽きる顔も見せずに食べていてよくそんなに食べれるなと思いました。韓国料理を食べた中でもっとも辛かったのはスープの中に入っている青トウガラシでした。あと皆と一緒に博物館を見学したり、干潟でバナナボート体験したり、ホテルの中では話したりしてとても充実した5日間でした。

今回の研修は韓国でしたが、アメリカ・ヨーロッパなどの研修旅行に行ってみたいと思いました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

僕は金世根（キムセグン）君の家に行きました。到着して服を着替えました。それからパソコンでサッカーのゲームをしました。そのゲームは細かいところまでリアルに再現してあって韓国のゲームも日本と同じように発達してるなと思いました。それから夕食を食べに行きました。パソコンを使ってハンゲル語から日本語へ通訳してもらって聞かれたのが「何が食べたい？」でした。その日の昼食がプルコギで、それがおいしかったので「プルコギ」と言ってわかってもらい車で出かけたのですが、お店へ行くのに2時間もかかり、やっと着いたと思ったらそこはカルビの専門店でした。結局3日間連続カルビだったので、もう飽きて食べれるか不



金世根君とお父さん

安でしたが、食べ出したらおいしくて箸が止まりませんでした。やっぱり本場は違うなと思いました。カルビの後に冷麺を食べました。お店を出てまた車に乗ると今度はショッピングモールに行きました。そこで靴を買ってもらったり、高そうな朝鮮人参のエキスを買ってもらったりとこんな高い物を買ってもらったりして大丈夫なのかなと気になり、「いいです。」と言おうと身振り・手振りをしたり、英語で話したりしましたが、うまく言葉が通じなくて結局買ってもらいませんでした。英語は世界共通語なので通じるようにもっと勉強しなければいけないと感じました。

た。その後は家に帰ってすぐ寝る用意をするのでお風呂は入らないのかな？と思いましたが、家族の皆さんが入らなかったのでも入りませんでした。寝ている時に飼い犬が吠えていて気になってあまり眠れなかったです。朝になって、朝食は昨日ショッピングモールで買ったコーンフレークでした。8時30分までに僧達文化芸術会館に集合ということが通じなくて家を出たのは8時50分でした。遅れたと思ってひやひやしていましたが、他の研修生も僕と同じで通じてなく集合が遅れていてほっとしました。今回のホーム・ステイでお世話になった金世根君やその両親をはじめ、韓国の人たちにとっても親切にしてもらい、やさしさを感じました。ホーム・ステイを体験してよかったです。

3. 務安郡での研修で学んだこと

務安郡庁訪問の時に、事前研修で教えてもらったハングルでの自己紹介をしました。僕の順番が最後だったのでとても緊張しましたが、うまく言えたので良かったです。また、回山白蓮というところに行きました。そこは蓮の池で10万坪もあって蓮がびっしりと生えていました。ところどころに花が咲いていて、とても綺麗でした。町全体は田畑が多く、民家もあまり密集してなくてのどかなところでした。



回山白蓮の蓮の花



ホタム空港宇宙展示場でみなさんと

体験・研修レポート

南山学園南山中学校女子部1年 重松 茉里

1. 北名古屋市の研修派遣に参加して

私にとって初めての研修は、不安と楽しさでいっぱい5日間でした。

私が応募したのは、親の勧めでした。

外国に行っているいろんな経験をした方が良いと言われたからです。私は、海外に行ったことがないし、このような研修もはじめてだったのでとても緊張しましたが、何事もトライしてみようと思い参加しました。

一ヶ月前から、相手の女の子との交流があったので、その子に会えるという楽しさとともに、未知の国へ行くという不安もありました。



空港から飛び立てば、そこはもう日本にはないまるで違う世界が広がっていました。様々な言葉が飛び交い、いろいろな人がいました。外国の文化を見ること、聞くこと全てを体で感じようと思いました。言葉が通じなかったらどうしよう、などと考えてしまったけれど、その言葉がその国の共通の言葉なのです。「郷に入れば郷に従え」というようにその国の言葉を使わなければなりません。行く前に、少しは韓国語を勉強していったけど、全然わからなかったです。積極的に自分の思いを相手に伝えれば、相手の思いも何とか感じ取れると思っていましたが、それでもうまく出来ない時は、ジェスチャーを使い、大げさにジェスチャーで説明するとわかってもらえました。

2. 務安郡でのホームステイを体験して

私のホームステイのペアは金書蘭ちゃんでした。7月に書蘭ちゃんが私の家に泊まりに来てくれたときは、初対面だったし、2泊あったけど緊張していて全然足りませんでした。しかしたった2泊だったけど友達になれたと思いました。私たちが韓国に行って、郡庁の前で待っていてくれた時、やっと会えた！と思いました。1ヶ月ぶりでしたから。それまで英語でメールのやり取りをして、お互いの事を分かり合えていたので緊張せずに気軽に話すことができました。



ハンボックを着て書蘭ちゃんと

書蘭ちゃんの家では、お父さんや弟、お母さんがとても優しく接してくれました。特にお母さんは親切に話しかけてくれました。書蘭ちゃんとは英語でやり取りできたけど、お母さんとは片言の韓国語でやり取りをしました。でも、わからない時は英語で書蘭ちゃんに言って、それをお母さんに伝えてもらいましたし、自分でも頑張ってジェスチャーで伝えたのでたくさん

話すことが出来て、また、片言でも自分の韓国語が通じた時はすごく親しみを感じました。コミュニケーションの手段として、言葉はとても重要なことだつくづく実感しました。

書蘭ちゃんの家ではみんなで「プルコギ」を食べました。プルコギは日本でいう「すき焼き」とまさにそっくりで、牛肉とエノキをいためて汁を加えたものです。辛さがなくて、おいしかったです。「マシッソヨ」（おいしい）といったら通じたみたいで、「マシッソヨ」と笑って返してくれました。言い出すときは恥ずかしかったけど、勇気を出して言って良かったです。

書蘭ちゃんが小さくて着られなくなった民族衣装の「ハンボック」を着せてもらいました。私は韓服なんて見たことも着たこともなかったので新鮮な体験でした。そしたら、ちょうどピッタリだったみたいで、お母さんが日本語で「かわいい」と言って、私を見て笑ってくれました。

やっぱり私って書蘭ちゃんよりだいぶ小さいんだなあと思い、ちょっと恥ずかしかったけど、お母さんが、書蘭ちゃんと同じように私にも接してくれてすごく暖かい気持ちになりました。

3. 務安郡研修での研修で学んだこと

務安郡では、青少年文化センター、海洋文化財研究所、自然博物館、ホタム空港宇宙展示場、干潟体験、務安生態干潟センター、回山白蓮池を見学しました。

海についての文化、花についての文化、空についての文化など日本とは違った様々な文化に触れました。務安郡は本当に自然がたくさんあるとわかりました。

ホームステイ先では国が違ってもお母さんと子供の関係は変わらないと感じました。

今回の研修を通じて、未来を背負っていく私達が、将来、国際交流という面を通して、世界の人たちと団結して物事を進めていく必要があるということ学びました。ただ自分たちの国が中心ではなく、世界にはいろいろな国があり、様々な人がいて、多様な文化があることを理解し、それを一つ一つ大切にして行動しなくてはならないと思いました。

私は今回の研修で、違う国の、一生の友達を作れたことが何よりも嬉しいです。

また、自分が大きく成長できるきっかけを作っていただいたことに感謝しています。

ホームステイ先の皆さんやその他の周りの方々とずっと仲良くしていきたいです。



務安郡での 体験風景

①

郡庁舎で自己紹介



8/18
午前

8/18
午前



ホタルム空港宇宙展示場見学

韓国風スキヤキを味わう



8/18
午後

8/18
午後



干潟体験



8/19
午前



ホストファミリーの見送り

回山白連池見学

8/19



務安郡での
体験風景

②



(編集)

北名古屋市 人事秘書課

〒481-8531

愛知県北名古屋市西之保清水田15番地

TEL : 0568-22-1111 FAX : 0568-25-1800

URL : <http://www.city.kitanagoya.lg.jp/>